

2003-07-14

電子カルテと医事会計の連携により快適な業務フローを実現 診療所向け電子カルテ「i-Clinic」の発売

2003年7月14日

各位

株式会社 日立メディコ
執行役社長 猪俣 博
(資本金:138億8千4百万円)

電子カルテと医事会計の連携により快適な業務フローを実現 診療所向け電子カルテ「i-Clinic」の発売

株式会社日立メディコ(本社所在地:東京都千代田区、執行役社長:猪俣 博、資本金138億8千4百万円)は、電子カルテと医事会計をシームレスに連携し、快適な業務フローを実現する診療所向け電子カルテシステム「i-Clinic」(アイクリニック)を発売します。

1. 開発の背景とねらい

医療機関の機能分化や連携が進む中、医療の情報化は21世紀の医療提供の姿を考える際に不可欠の要素と位置づけられています。このような状況において、医療機関ではこれまで以上に質の高い医療を効率良く提供することが求められています。

新製品「i-Clinic」は、紙カルテをイメージしたシンプルな画面設計により、効率の良い入力を実現し、さらに同一画面に分かりやすく情報を配置することにより、患者さんへのインフォームドコンセントも容易にします。また、電子カルテと医事会計をシームレスに連携させ、カルテに入力されたデータをそのまま医事会計データとして処理することで、会計時の作業と患者さんの待ち時間を大幅に削減します。

※i-Clinicの3つの「アイ」

- 「愛」 医療の提供者や患者さんに対して愛情を持って創られた製品です。
- 「I」 医療の提供者や患者さん一人ひとりの立場で創られた製品です。
- 「EYE」 医療の提供者や患者さんの目線で創られた製品です。

2. 製品の主な特長

○紙カルテ感覚の入力画面 → [画面サンプルはこちら](#)

紙カルテをイメージした入力画面デザインを採用し、多数の画面を切り替える煩わしさを解消しました。また、液晶ペンタブレットの採用で紙カルテに記入するような感覚での入力操作を可能としました。

○優れた操作性

DO入力、セット入力、プルダウンメニューなどにより、同じ内容を繰り返し入力する煩わしさを解消します。

※DO入力:患者さんの過去の診療内容を1回分丸ごとコピーする入力方法

※セット入力:よく使う検査や投薬の組み合わせをセットとして登録しておく入力方法

※プルダウンメニュー:セットを組みにくい項目について選択肢を選ぶ形式の入力方法。

○インフォームドコンセントに役立つ情報提供機能

投薬履歴と検査結果をグラフ表示することにより、治療効果を視覚的に把握することが可能となり、画像検査では正常画像と患者さんの画像との比較表示により、患者さんに分かりやすく情報を提供することができます。

○定型書類のフォーマット装備

院内指示箋、診療情報提供書、在宅医療計画書、証明書、紹介状などの定型書類をすばやくきれいに作成することが可能です。

○健康管理意識の高い患者さんに喜んでいただけるマイ電子カルテ機能

診療結果を電子データメディア(メモリースティックほか)に出力し、患者さんが自宅のパソコンでデータを閲覧することが可能です。また、患者さんが自分で計測した血圧データなどを追加入力することで、自己管理結果と診療所での治療との連携指導が可能です。

○正確で迅速な会計処理

カルテに入力されたデータがそのまま医事会計データとして処理されるため、改めて会計入力をする手間と時間が省けます。指導料などの加算は医事会計端末が自動で算定するので、正確な会計計算が可能です。

○レセプト電算処理への対応(オプション)

レセプト電算処理システムへの対応が可能です。提出前にレセプトチェックプログラム「べてらん君」を用いることで、レセプトの返戻・減額を未然に防止し、適正なレセプトを作成することが可能です。

※べてらん君:投薬された医薬品や診療行為と医師が診断した傷病名の整合性があるか、医薬品の投与量が適正化など、保険請求時にチェックされる項目を自動チェックするプログラムです。(オプション)

3. 価格:760万円(標準構成)

4. 発売時期:2003年8月

5. 販売予定台数:100台(2003年度)

なお、新製品は2003年7月16日から18日にかけて開催される「国際モダンホスピタルショウ2003」(東京ビッグサイト)に出展します。

■このニュースのお問い合わせ

株式会社日立メディコ 広報担当:西田 製品担当:五十嵐・山本
〒101-0047 東京都千代田区内神田一丁目1番14号(日立鎌倉橋別館)
TEL 広報担当:03-3291-6391
製品担当:03-3293-1652